

第9号 南部箕蚊屋広域連合

まめ・カフェ通信

～第9回まめ・カフェ開催報告～

令和2年1月16日（木） 18:30～20:00

伯耆町農村環境改善センター 多目的ホール

参加者 54名（参加者 44名、スタッフ 10名）

（ 医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、
社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士、
認知症地域支援推進員、その他 ）

ミニ講座

- 「認知症初期集中支援チームの概要」
～南部箕蚊屋広域連合における取り組みについて～
南部箕蚊屋広域連合 伯耆地域包括支援センター
保健師 有富 千帆
- 「認知症初期集中支援チームの取り組み」
～訪問看護師の立場から～
南部町訪問看護ステーション
主任看護師 三浦 玲子 さん
- 「認知症初期集中支援を考える」
南部町国民健康保険西伯病院
院長 高田 照男 先生



まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや? (元気ですか)」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

まめ・カフェです♪

最初に、伯耆地域包括支援センターの有富保健師から連合の認知症初期集中支援チームの構成やチーム会議の様子、平成30年度の実施状況などの取り組みについて説明があり、次に、訪問看護師の立場から三浦看護師に実際の事例を通してチーム員の活動について具体的にお話ししていただきました。最後に、チームサポート医の高田先生から、認知症初期集中支援事業の目的や活動内容、対象者についての考えや介入時に留意していること等についてお話ししていただきました。

そのあとのグループディスカッションでは、参加者間でミニ講座を聞いての感想や疑問に思っていること、また日頃の認知症の人への支援について感じていること等を話し、全体発表を通して情報の共有を行いました。

終わりに、高田先生は「認知症の人が幸せに生きることができる地域になるよう、協力していきましょう」と話されました。

まめ・カフェの飲みものとお菓子は皆さんからの募金で準備させていただいております。

今回も、ご協力ありがとうございました。

《参加者の感想》

【 アンケート結果より 】（回収数 45）
まめ・カフェに参加していかがでしたか？

- | | |
|-----------|----|
| 1. 大変良かった | 24 |
| 2. よかった | 18 |
| 3. 普通 | 1 |



- ・認知症初期集中支援チームというものがあることを知らなかったのでよい勉強になった。認知症と診断を受けるのがよいのか、命にかかわらなく生活できるのなら診断を受けなくてもいいのでは？などいろいろな考えさせられた。
- ・認知症初期集中支援チームの存在、活動等を知ることができてよかった。薬剤師の関わり方を考えていくきっかけになった。
- ・専門医の意見を聞くこともでき、「初期集中支援」について理解ができてよかった。専門医への受診も大変なことですが、認知症になり、その方が幸せに暮らせることができるよう考えることが一番なのかと思った。
- ・病院のなかではわからない地域の活動や認知症の方への対応、介入について改めて考える機会を頂いた。
- ・介護支援専門員として関わってからは、何となく相談しにくいというか、どの時点で相談するのか判断に迷う。
- ・まめカフェは毎回参加してよかったと思う。いろんな職種の方と気軽に話せ、聞くことができ、また医師の立場からの考えを聞くことができてよかった。こういう支援チームは心強い。
- ・グループ内でもさまざまな職種があり、話が聞けて参考になった。
- ・認知症の受け入れができない方の支援は難しいと思う。支援チームの介入により支援が少しでもできるようになればよいと思う。
- ・初期集中の成果事例などが聞けるとよかった。医師の参加があり、よい話が聞けた。困ったら相談したいと思った。
- ・認知症について考えさせられた。病気とみるのか老化とみるのか、関わり方や接し方を考えさせられる。ディスカッションでみなさんのいろいろな経験や体験を聞いて参考になった。
- ・認知症の方の何が問題になっているのかをしっかりとらえることの大切さを学んだ。



❖アンケート結果の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！